



奈良県知事

荒井 正吾

奈良県は、自然の素晴らしいところですが、とりわけ春と秋の風情は特筆できます。なかでも、奈良の秋は「柿食えば 鐘が鳴るなり 法隆寺」の句のように、社寺と食べ物と自然が混然となって訪れる人々の五感を刺激してくれます。毎日味わっているとそれがどんな貴重なものかについて鈍感になるのが人の習いではありますが、人の交流が活発になって、これまで行かなかった地域へ行き、これまで味わわなかった食を経験し、奈良の良さや良くなってきたことを発見することが多くなってきました。奈良には以前よりもおいしいところがたくさん目につくようになってきました。四季のイベントも賑やかになってきています。

奈良は遠くから訪れられる多くの人々により愛され始めています。今年の奈良の秋は訪問者が堪能される以上に、地元の人に奈良の良さを味わっていただけたらと思います。「国文祭・障文祭なら2017」をきっかけに奈良を再発見してください。

人権コーナー

毎月11日は人権を確かめあう日



ひかりちゃん てんいち先生

つながりや支え合いのなかで

奈良県の高齢者を対象とした調査によると「あなたはどこで最期を迎えたいと思いますか」という問いに半数以上の方が「自宅で最期まで過ごしたい」と答えています。高齢になっても、住み慣れた地域で暮らしたいというのは、多くの方が望むことではないでしょうか。

先日、友人が住む町の運動会に参加する機会がありました。幼い子どもから高齢の人まで幅広い世代の人がたくさん集まり、二人三脚や玉入れに興じるなど、なごやかに会が進んでいました。その中で、杖をつきながら高齢の人と一緒に競技に参加されており、そのようすをみんなで見ながら「がんばれ〜」と応援する姿がとても印象的でした。日頃から地域の中につながりや支え合う関係があるからこそ、高齢になっても安心して楽しく暮らせるのだと強く感じました。

「自宅で最期まで過ごしたい」という思いは、住み慣れた場所で親しみのある人たちとあいさつをかわし、自分らしい日常生活を続けたいということなのだと感じます。そのためには、医療や介護サービスの充実とともに、家族・地域をつながりや支え合いを充実させていくことが必要です。

できる限り住み慣れた地域で誰もが自分らしく暮らし続けるために、そのような地域をみんなで一緒につくりていきたいと思います。

今月の標語

同じかな？ ひとりひとりの あたりまえ

うえむら ゆうと
県立西の京高等学校 2年 上村 優斗さん

今月のポスター



県立畷傍高等学校 1年
しみず まい
清水 麻衣さん

※学校名・学年・氏名は発表時のものです。

クイズ&プレゼント

正解者の中から抽選で

NAFIC 季節の野菜とジャムの詰め合わせを10名にプレゼント!

※写真はイメージです。
野菜は発送時期により変わります。



締め切りは9月30日(消印有効)

○にあてはまる文字を答えてください。

Q 平成28年4月に桜井市に開校した、「食」と「農」のトップランナーを育成する県立の大学校は？

A **なら食と○の魅力創造国際大学校**

ヒントは5ページ

7月号の答えは「応援団」でした。応募総数1210件。

ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、「県民だより奈良」の感想(良かったコーナー・取り上げてほしい話題・改善点など)を記入して、〒630-8501(住所記入不要)奈良県広報広聴課へ。
①www.pref.nara.jp/30222.htmからも9/1以降応募できます。
※個人情報、プレゼントの発送以外には使用いたしません。